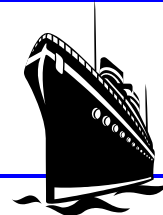


MSI Marine News

トピックス

●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご閲覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

**コンテナ貨物盗難にご注意！**

～ハード面のみならずソフト面対策の強化を～

1. 犯人に見破られる防犯措置

貨物輸送中の盗難被害額は世界全体で年間およそ500億ドル(約6兆円)にのぼると推定されています。盗難の手口は巧妙化しており、最新の盗難防止装置を用いても被害を防げないケースも発生しています。特に、内通者によって事前に輸送情報が外部に漏らされ、防犯の仕組みが犯人に認知されてしまう場合もあるため、情報管理体制の見直しも含めた対策が重要であると言えます。本稿では、盗難防止措置を施していたにもかかわらず被害にあった最近の事例を2つご紹介します。あらためて防犯策を振り返っていただくきっかけとなりましたら幸いです。

2. 最近の事例**事例1：GPS装置付きコンテナの盗難**

輸送を請け負った運送会社では、貨物を積載したコンテナの所在地をモニターするため、コンテナにGPS装置を取り付けていました。20分ごとに現在地確認が行なわれ、モニター上で貨物は順調に輸送ルートを進んでいるように見えていましたが、GPS装置は犯人が乗るダミーの乗用車に付替えられておりコンテナは行方不明、犯人が乗り捨てた乗用車だけが発見されました。貨物の輸送ルート情報が事前に犯人によって知られていたことから、このような事件が起きたと考えられます。

事例2：コンテナ中身のすり替え

ドラム缶入りの貨物が積み込まれたコンテナは、出帆地で貼られたシールに損傷の無い状態で到着しましたが、開封したところドラム缶の中身が砂利にすり替えられていました。調査の結果、コンテナのハンドルロックのボルトに手を加えられた形跡があり、シールが装着された状態でドアが開けられ、貨物のすり替えが行われたものと推測されました。なお、輸送に使われたコンテナには、特殊な防犯装置(*)が貨物と一緒に積み込まれていましたが、犯人によって破壊されていたことから内部犯行が疑われ、その後複数の関係者が検挙されました。



<取り替えられたボルト>

(*)GPS機能に加え、光量・振動・温度・湿度を記録する装置。ドアの開放を示す光量の著しい増加など、輸送過程で異常値が検知された場合、セキュリティ会社が現場へ駆けつけることができる最新型の装置。

3. ソフト面対策強化の重要性

盗難リスクの高い国では盗難も組織的に行われることが多く、犯人側も盗難防止のセキュリティに関する知識を有しており、盗難被害をすぐに発覚させないような巧妙な手法をとることがあるため、犯人が検挙されにくいことが現実です。今回ご紹介した事例は、いずれも犯人が内通者を通じて輸送のルートやセキュリティ装置等の情報を入手して犯行に及んでいました。このような被害を防止するためには、防犯装置の設置などハード面の対策に落とし穴はないか今一度見直し、最新の対策情報を得るように日ごろから注意することに加え、**貨物・輸送情報の情報管理、輸送ルート・セキュリティパスワードの定期的な変更、および輸送にかかわる関係者の信用調査など、ソフト面の対策の強化が非常に重要**といえます。

以上